

平成31年 2月

青戸春香 学位論文審査要旨

主 査 南 前 恵 子
副主査 景 山 誠 二
同 花 木 啓 一

主論文

A conceptual model for quality of life among people with type 2 diabetes in the Philippines

(フィリピンの2型糖尿病の人々における生活の質の概念モデル)

(著者：青戸春香、谷村千華、Abir Majbauddin、小林伸行、森田鉄二、井上和興、
大谷眞二、深田美香、花木啓一)

平成31年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. Qualitative analysis of the psychosocial adaptation process in children with chronic kidney disease: toward effective support during transition from childhood to adulthood

(慢性腎臓病をもつ小児の心理社会的適応過程の質的分析：小児から成人への移行期における有効な支援へ)

(著者：青戸春香、中谷ひかる、金山俊介、岡田晋一、深田美香、花木啓一)

平成30年 Yonago Acta Medica 61巻 166頁～174頁

審査結果の要旨

本研究は、フィリピン低所得者層の糖尿病患者を対象とした健康調査の結果から、QOLに関連する複数の要因とそれらの相互連関を包含した因果関係概念モデルを構築することを目的とした。その結果、糖尿病患者の自己効力感が、運動に関する自己管理行動を介してQOLに最も影響を与えていたことが示された。つまり、糖尿病患者のQOLを向上させるためには、糖尿病の教育や自己効力感の涵養など認知面に働きかけて糖尿病患者の行動変容を促す方策が有効であることが明らかとなった。本論文の内容は、保健学の分野で、途上国における糖尿病対策には、病者の認知面に働きかけ行動変容を促す手法が有用であることを示したもので、明らかに学術水準を高めたものと認められる。